

Ⅲ-1 総合福祉学部

1. 概要

1) 学部の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標に基づき、総合福祉学部における卒業時の到達目標である学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）は、以下のとおりとする。

1. 専門職としての価値を備え、生活課題が生じる個人と環境との関係について具体的に説明できる能力を身につける
2. 具体的な個人や家族の生活課題をアセスメントで明らかにし、生活課題の解決に向けて支援計画を作成し実施することを説明できる能力を身につける
3. 具体的な地域の生活課題をアセスメントで明らかにし、生活課題の解決に向けた支援計画を作成し実施することを説明できる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

学部のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な個性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を基礎教育科目に配置する
2. 保健・医療・福祉に携わる一員として、社会福祉及び経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 介護福祉、ソーシャルワーク、マネジメントに関する専門科目を専門教育科目に配置する
4. 主体的に学べるケーススタディ（CS）、問題解決型学習（PBL）などのアクティブ・ラーニングを用いた実践力養成の科目を配置する
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

養成する人材像やディプロマ・ポリシーに定める修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、総合福祉学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりとした。

1. 保健・医療・福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
2. 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
3. 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
4. 社会福祉施設や医療機関等の組織のマネジメントや支援システムの運営管理に関心のある人
5. サービスの開発・企画や地域の課題解決を考える力がある人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の基本理念に基づき、総合福祉学部の養成する人材像は、以下のとおりである。

1. 人間に対する尊厳という価値のもとで、人々の「社会生活」の視点から支援できる人材
2. 地域共生社会の構築に向けて、個人が生活していく上での課題を明らかにし、支援計画を立案して課題解決を図っていく能力を有した人材
3. 地域共生社会の構築に向けて、地域に存在する生活課題を明らかにし、支援計画を立案して解決していく能力を有した人材

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

総合福祉学部では、本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、福祉・医療分野で働く者として必要な一般教養とともに専門的知識と技術を確実に修得することを目指している。さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた能力の高い実践力を育てることを目指している。

1 学部 2 学科の利点を生かし、保健・医療・福祉に関する基礎的な科目と保健・医療・福祉の経営に関する基礎的な科目を相互に学びあうことができるように必修科目を配置する。必修科目とした「医療福祉とマネジメント」は、保健・医療・福祉とマネジメントの入門科目であり、保健・医療・福祉とマネジメントの基礎的知識を学修することができる。また、利用者をどのように捉えるかの学びとして、「社会学と社会システム」、「ケアマネジメント論」の科目を置き、介護福祉マネジメント学科の学生は「社会福祉の基礎」、ソーシャルワーク学科の学生は「経営の基礎」を学修することが目的となる。

さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいたマネジメント能力の高い実践力を育てることを目指している。

(2) 教育課程の編成

総合福祉学部では、本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、福祉・医療分野で働く者として必要な一般教養とともに専門的知識と技術を確実に修得することを目指している。さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた能力の高い実践力を育てることを目指している。

また、1 学部 2 学科の利点を生かし、保健・医療・福祉に関する基礎的な科目と保健・医療・福祉の経営に関する基礎的な科目を相互に学びあうことができるように必修科目を配置する。必修科目とした「医療福祉とマネジメント」は、保健・医療・福祉とマネジメントの入門科目であり、保健・医療・福祉とマネジメントの基礎的知識を学修することができる。また、利用者をどのように捉えるかの学びとして、「社会学と社会システム」、「ケアマネジメント論」の科目を置き、介護福祉マネジメント学科の学生は「社会福祉の基礎」、ソーシャルワーク学科の学生は「経営の基礎」を学修することが目的となる。

さらに、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいたマネジメント能力の高い実践力を育てることを目指している。

■介護福祉マネジメント学科の概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

介護福祉マネジメント学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける
2. 利用者のアセスメントから生活課題を明らかにして、介護計画を作成、実施、評価ができ、それを他の介護職に指導できる能力を身につける
3. 介護計画の作成・実施において、多職種等と協働して支援する能力を身につける
4. 介護職員のリーダーとして、チームで介護業務を遂行していくことができる能力を身につける
5. 社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関わることができる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

介護福祉マネジメント学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
2. 包括的・重点的支援に必要な専門職の知識を修得させるため、「社会福祉の基礎」及び「経営の基礎」に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 専門職のための技能を修得するための専門教育科目を配置する
4. 主体的に学べるケーススタディ、問題解決型学習などのアクティブ・ラーニングを用いて、実践力を育てる
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

介護福祉マネジメント学科は建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 介護福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
2. 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
3. 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
4. 社会福祉施設、医療機関等の組織の経営、運営管理について論理立てて考える力がある人
5. 新しいソーシャルビジネスやサービスを開発・企画することを論理立てて考える力がある人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた人材を育成します。

1. 生活を支援する視点で、利用者のアセスメント、介護計画の作成、実施、評価に基づく介護過程が遂行でき、そのことを他者に指導できる人材

2. マネジメントに関する専門的知識を修得し、介護職員等をマネジメントする能力を有した人材
3. マネジメントする専門的能力を身につけ、社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関わるマネジメント能力を有した人材

3) 教育課程

(1) カリキュラムの特色と構成概念

教育課程は「基礎教育科目（卒業要件・24単位）」、「専門基礎教育科目（卒業要件・40単位）」、「専門教育科目（卒業要件・60単位）」の3区分で編成する。「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、区分では初年次より対人マネジメント・経営教育を履修させ、基礎能力を充実させた後に、「専門教育科目」区分において学生各々の卒業後の進路に合わせて必要とする教育科目を施す。

なお、介護福祉士の受験資格取得を目指す者については科目区分の概要の各項目の中で対応を記載した。

特徴としては、「基礎教育科目」段階にて運営管理手法の教育における導入科目4科目・6単位を必修科目と位置づけ、次年次の経営関連科目の素養を吸収できるよう履修させる。他に本区分では健康科学2単位、語学4単位も卒業必修科目とする。

「専門基礎教育科目」の『経営の基礎』の科目領域は本学科の基幹的科目で構成され、他の職種への理解のための知識の修得、事業経営戦略を策定するために模擬体験を活用した実践的な経営知識を修得、さらに実践的なフィールドにおける地域医療、福祉サービスの組織経営、さらに介護施設経営に関する対象組織の経営に関する知識の修得と応用力の修得を目指す科目を必修科目として配置した。

「専門教育科目」では卒業後活躍する進路に合わせて領域を設置する。主に社会福祉施設等の事業運営について理解するための科目領域の『医療管理と実務』と、経営学理論や概念の理解への科目領域の『マネジメント理論』、医療福祉活動を中心として地域開発に関する科目領域の『地域マネジメント』を設置した。

また、介護福祉を基礎にしたマネジメント能力を身につける科目領域として『介護福祉』を配置し、地域開発に関する領域も合わせ、各領域の科目を混合させて履修させる。

「総合科目」は他の2区分での学びを集約し、各々の目指す進路・職業のために少人数制のゼミナール形式での教育を実施する。3年次の「専門演習Ⅰ」は、ゼミナリステンの目指す専門分野のテーマに沿って希望し、選択するものとし、4年次の「専門演習Ⅱ」まで連続させる。また「専門教育科目」を除く2つの科目区分において、総合福祉学部としてソーシャルワーク学科と共有できる知識と技能の修得を可能とし、特に医療・福祉制度及び公共政策等の理解、さらに実践的な福祉・介護施設の経営に関しての科目を中心に履修させる

(2) 教育課程の編成

本学の基本理念、「介護福祉マネジメント学科の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた高い実践力を育てることを目指しています。

基礎教育科目は、人権や多様な個性を尊重し、利用者が主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置し、「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類しました。

専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、ICF（国際生活機能分類）の視点、多職種との連携、地域での実践及び福祉や医療等の情勢、経営や管理運営の基礎を学ぶための科目を配置しました。本科目は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」「経営の基礎」に分類しました。専門教育科目は、介護・福祉で求められる知識と技術を確実に修得すること、さらに介護・福祉の専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置しました。

（３）教育課程進度表

① 教育課程編成方針

総合福祉学部では、本学の基本理念、「総合福祉学部の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の３区分で編成し、福祉・医療分野で働く者として必要な一般教養とともに専門的知識と技術を確実に修得することを目指している。さらに、ケーススタディや問題解決型学習を通じて、より実践に基づいた能力の高い実践力を育てることを目指している。

これらを達成するために、科目の配置はカリキュラム・ポリシーに基づいている。

② 学年の特徴

１年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、１年次から「専門基礎教育科目」を配置し、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としています。

２年次では、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

３年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

４年次では、３年次までの学修に加え、さらなる広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ 介護福祉実習

介護福祉士の資格取得を目指す学生のために配置した科目領域である。資格取得要件として介護福祉科目26科目72単位を履修することが必要となる。人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を修得する。

「発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ」では、介護を必要とする人の生活支援を行うため介護実践の根拠となる人間の心理を理解し、人体の構造や機能を理解する「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ」では、介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。

「介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する。

「介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、尊厳の保持や自立支援、生活の豊さの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、

根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する。

「生活支援技術ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB」では、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。

「介護総合演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」では、地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力や本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

「介護実習Ⅰ型基礎・Ⅰ型応用・Ⅱ型基礎・Ⅱ型応用」では、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な意識・技術を修得する「医療的ケアⅠ・Ⅱ」を履修させる。

また、複雑化する医療ニーズ対して、医療職との連携をもとに生活に必要な行為として介護職ができる行為を実践的に学修する「医療的ケアⅢ」や認知症の人が住み慣れた地域の中での支援を受けながら自分らしく暮し続けられるようなケアサービスを学修する「認知症ケア論」等、ケアに必要な幅広い知識・技術を修得することを目指す。

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個別性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をとおして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

■ソーシャルワーク学科の概要

1) 学科の方針

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）：DP】

ソーシャルワーク学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1. 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける
2. 保健・医療・福祉・介護・就労・教育等に関わる専門的知識や技術に関する能力を身につける
3. 利用者主体の生活支援として、ソーシャルワークの展開過程を実施できる能力を身につける
4. 利用者やその家族等の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（個別支援・集団支援）する能力を身につける
5. 地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（地域支援）する能力を身につける
6. 個別支援・集団支援から地域支援へ、地域支援から個別支援・集団支援への連続した支援ができる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）：CP】

ソーシャルワーク学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する。

1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
2. 包括的な支援に必要な専門職かつチームの一員として、社会福祉と経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 福祉サービスを必要とする人の支援を可能とするため、ソーシャルワーク及び経営に関する科目を専門教育科目に配置する
4. ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通して、アクティブ・ラーニングによる問題解決プログラムに関する科目を配置する
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）：AP】

ソーシャルワーク学科は建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1. 保健・医療・福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
2. 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
3. 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
4. 社会福祉施設や医療機関等の支援システムの運営管理に関心のある人
5. 本人や地域の課題解決について考える力がある人

2) 教育目標

【教育目標—養成する人材像】

本学の教育理念を具現化するため、以下に掲げる特性を備えたソーシャルワーカーを育成します。

1. 地域共生社会の構築に向けて、保健・医療・福祉・介護・就労・教育等に関わる専門的知識を修得し、多職種連携のもとで、ソーシャルワークが実践できる人材
2. 利用者主体で、個人やその家族等の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（個別支援・集団支援）できる人材
3. 住民主体で、地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（地域支援）ができる人材
4. 個人や家族への支援である個別支援・集団支援と、地域への支援である地域支援を連続して支援できる人材

3) 教育課程

（1）カリキュラムの特色と構成概念

本学の基本理念、「ソーシャルワーク学科の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた高い実践力を育てることを目指しています。

基礎教育科目は、人権や多様な個性を尊重し、利用者が主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置し、「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類しました。

専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、ICF（国際生活機能分類）の視点、多職種との連携、地域での実践及び福祉や医療等の情勢、経営や管理運営の基礎を学ぶための科目を配置しました。本科目は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」「経営の基礎」に分類しました。専門教育科目は、ソーシャルワークで求められる知識と技術を確実に修得すること、さらにソーシャルワークの専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置しました。「ソーシャルワークの理論と方法」及び「管理運営の実践」において、知識・技術を学び、「ソーシャルワーク演習」においては演習を通して知識と技術を統合し、「ソーシャルワーク実習」ではこれまで学んだものを、実践できるよう具体化していくのが目的です。さらに「総合科目」として、マネジメントケーススタディとなる「基礎演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修とし、「卒業研究」（4単位）は選択科目とします。体験学修や事例検討などを行うことで高い実践力を育てることを目指します。

（2）教育課程の編成

本学の基本理念、「ソーシャルワーク学科の養成する人材像」及び教育目標を達成するために、教育課程を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」の3区分で編成し、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実践に基づいた高い実践力を育てることを目指しています。基礎教育科目は、人権や多様な個性を尊重し、利用者が主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置し、「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類した。専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、ICF（国際生活機能分類）の視点、多職種との連携、地域での実践及び福祉や医療等の情勢、経営や管理運営の基礎を学ぶ

ための科目を配置した。本科目は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」「経営の基礎」に分類した。専門教育科目は、ソーシャルワークで求められる知識と技術を確実に修得すること、さらにソーシャルワークの専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置した。「ソーシャルワークの理論と方法」及び「管理運営の実践」において、知識・技術を学び、「ソーシャルワーク演習」においては演習を通して知識と技術を統合し、「ソーシャルワーク実習」ではこれまで学んだものを、実践できるよう具体化していくのが目的である。さらに「総合科目」として、マネジメントケーススタディとなる「基礎演習Ⅰ」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修とし、「卒業研究」（4単位）は選択科目とする。体験学修や事例検討などを行うことで高い実践力を育てることを目指す

（3）教育課程進捗表

① 教育課程編成方針

ソーシャルワーク学科では、保健・医療・福祉分野において、これまでの枠の中での狭い範囲のソーシャルワークではなく、複数分野の問題や複雑に絡む問題を抱える対象者や世帯への支援を分野横断的かつ包括的に考え実践できる専門的知識と技術を備えた人材を養成するため、カリキュラム・ポリシーに基づいて教育課程を編成する。

なお、編成にあたっては、ソーシャルワーク学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成した。

② 学年の特徴

1年次では、「基礎教育科目」を配置し、人間理解の基礎となる学問的知識を得るとともに、学生個人の価値観や人間観を育て、科学的思考力や大学人として主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けることを目標としています。同じく、1年次から「専門基礎教育科目」を配置し、「専門教育科目」への導入と「基礎教育科目」と「専門教育科目」の関連性を確認しながら学ぶことで、今後の学修への関心を高め、明確な動機付けとなることを目的としています。

2年次では、「専門基礎教育科目」「専門教育科目」数が増え、「基礎教育科目」で学んだ知識を関連させ、活用しながら、「専門教育科目」の基礎を修得することを目的としています。

3年次では、「専門教育科目」の講義・演習・実習をとおして、専門的知識を深め、最終学年における統合化に向けて準備することを目的としています。

4年次では、3年次までの学修に加え、さらなる広がりを学ぶとともに、卒業時の学修到達度と今後の目標や自己課題を明らかにすることを目的としています。

③ ソーシャルワーク実習

社会福祉士取得を目指す「ソーシャルワーク実習Ⅰ」では、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養うとともに、支援を必要とする人や地域の状況をICF（国際生活機能分類）の視点を踏まえた社会生活モデルに基づきアセスメントし、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。その把握した課題に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した問題解決プログラムの作成、実施及びその評価ができる能力を修得する。さらには、包括的・重層的な地域生活支援に必要な関連分野の専門職との連携のあり方、及びその具体的内容を実践的に理解することを目的としています。2年次の「ソーシャルワーク実

習指導Ⅰ」及び「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の学びを経て実習を配置しています。

精神保健福祉士資格取得を目指す「ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）」では、を通して、『精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解』や『精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識』に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得するとともに、その生活実態や生活上の課題について具体的に把握する。また、実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応し、問題解決するプログラムを作成できる能力を修得する。さらには、包括的・重層的な地域生活支援に必要な関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する

④ 主体的学修

学修の主体は、学生であることから、それぞれの授業科目において、学生自らが積極的に参加し、主体的に学修に取り組むことで、自らの課題を達成していくこと、並びに学生の個性に応じて、多領域にわたり、学問的興味や関心を持つことができることを目的に、演習の学修時間を多くしています。グループワークなどのチーム学修をととして、学生相互に学びを深めるとともに、調整する能力や協働する能力、ディスカッション能力を育成することもねらいとしています。

2. 履修について

履修とは、「履修しようとする科目について登録し、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」という過程を意味します。履修登録にあたり、『キャンパスガイド』・『履修の手引き』・『シラバス』・『授業時間割』を精読の上、履修計画を立ててください。1年間の履修計画を立て、前期の履修登録期間中に後期分の履修登録も行ってください。

1) 履修の上限単位（CAP制）

本学では、1単位の単位修得に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化をはかるために、学年ごとに適切に学修できるように、履修登録科目数の上限制度であるCAP（キャップ）制を導入しています。このCAP制は、1年間に履修することのできる授業単位を制限するので、上限を超えた履修登録をすることはできません。

（2022年度入学生）

学年	1年間の上限
1年	45単位
2年	45単位
3年	45単位
4年	45単位

2) 履修登録スケジュール

履修登録および履修登録訂正のスケジュールは該当年度の『キャンパスガイド』及び掲示等で確認してください。

3) 履修登録訂正期間

履修登録の内容を誤った場合や、授業の内容が自分の勉強したい内容と異なっていた場合、もしくは履修計画を見直した結果履修科目を変更したいという場合は、定められた期間で履修登録訂正の手続きを行ってください。やむを得ない事情で所定の期間外の履修登録及び登録変更は、教務委員長の許可が必要になります。

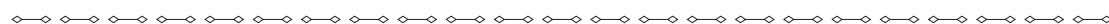
履修登録訂正の手続きについての詳細は該年度の『キャンパスガイド』及び掲示等で周知されます。

4) 履修上の注意

卒業に必要な科目履修、単位の管理は、学生自身の自己責任となります。『キャンパスガイド』と『シラバス』等を活用して、履修方法、単位認定、試験等にかかわる事項を十分に確認しておきましょう。

また、堅実な履修計画を立て、単位を管理し、4年間の履修計画を立てておきましょう。

- ① すでに単位を修得している科目を履修することはできません。
- ② 教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前または事後に履修人数を調整することがあります。
- ③ 授業時間が重複する科目を履修することはできません。
- ④ 各学年において、上級学年に履修する授業科目を履修することはできません。
- ⑤ ソーシャルワーク実習の履修には、先修要件があります。先修要件を満たしていない場合は、実習を履修できません。



ソーシャルワーク実習に関わる科目を履修するためには、履修規程第19条の進級要件を満たし、かつ次に定める科目の単位を修得していなければならない。

実習科目	先修要件
ソーシャルワーク実習Ⅰ	2年次後期の配当科目のソーシャルワーク実習指導Ⅰを修得していること。
ソーシャルワーク実習Ⅱ	3年次後期の配当科目のソーシャルワーク実習指導Ⅲを修得していること。

3. 単位修得について

(1) 卒業要件総単位数

本学を卒業するためには、下記の表が示す単位数の修得が必要となります。

介護福祉マネジメント学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	12単位	10単位	8単位	30単位
選択単位	12単位以上	30単位以上	52単位以上	94単位以上
小 計	24単位以上	40単位以上	60単位以上	124単位以上

ソーシャルワーク学科

科目区分	基礎教育科目	専門基礎教育科目	専門教育科目	卒業要件
必修単位	12単位	31単位	18単位	61単位
選択単位	12単位以上	21単位以上	30単位以上	63単位以上
小 計	24単位以上	52単位以上	48単位以上	124単位以上

(2) 算定基準

大学で履修する授業科目には、それぞれ「単位」という一定の基準が定められています。1単位とは、学生が1科目について行う45時間（2単位の場合は90時間）の学習活動を意味し、その学習活動とは授業と自習からなります。授業科目の1単位あたりの時間数は、授業形態に応じた教育効果や自習時間等を考慮したものです。

〈1単位あたりの授業時間数〉

講義	15時間～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
演習・実習	30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位
1つの授業科目の中に講義、演習、実習のうち、2つ以上を併用	1つの授業科目に講義、演習、実習のうち、2つ以上の方法の併用により行う授業については、組み合わせに応じ、30時間～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業を持って1単位としています。

(3) 単位の「修得」について

単位の「修得」は、「履修登録」した科目の所定の授業実施時間数の3分の2以上を出席し、定期試験を受験し合格することで、その科目の単位を修得することができます。

ただし、科目によっては、試験の成績にレポート（課題）の評価、授業の受講態度などが加味され、総合的に評価されます。

4. 履修科目について

介護福祉マネジメント学科

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

(1) 基礎教育科目（卒業要件：24単位以上）

基礎教育科目は4つの科目領域に大別し、一般的な教養科目を基盤とし、カリキュラム・ポリシー(CP1)により、介護・福祉に関連する分野の知識や考え方、これら分野において対象となる人間そのものや、人間としての生き方や在り方などが学べる科目を中心に配置する。科目領域を『人間と文化』、『人間と社会』、『健康科学』及び『語学』にわけ、24単位以上を卒業必要単位数と定め、幅広く偏りなく知識を養うことを目的として配置する。

ア. 人間と文化（8単位以上）

配当年次を1・2年次とし、文化や社会生活に関連する科目を配置し、これからの人材が、サービスや対人支援に携わることを想定し、人間理解の重要性を踏まえ「人間関係のコミュニケーション」、「倫理学」、「心理学と心理的支援」、「発達心理学」の4科目などを中心に配置した。科目選択の自由度を上げるため、広範な教養科目を設置し11科目19単位の中から8単位以上を履修させる。

イ. 人間と社会（10単位以上）

社会科学分野の基本的な知識、教養を身につけるための科目を、配当年次1・2年次とし、入学後の初年次から専門の導入的側面を持つ科目を修得させ、「法学入門」、「経営学入門」、「マーケティング入門」、「会計学」の4科目を必修科目とし、6単位の取得を卒業要件とする。残りの科目のうちから合わせて10単位以上を履修させ卒業要件とする。

ウ. 健康科学（2単位以上）

配当年次を1・2年次とし、健康科学に関する科目、「生活科学」、「環境科学」、「健康とスポーツⅠ・Ⅱ」を配置し、4科目6単位の中から「健康とスポーツⅠ」を必修科目とし、2単位を卒業要件とする。

エ. 語学（4単位以上）

日本語を含めた4か国語を学べる科目配置である。必修科目の「日本語表現」は、近年のコミュニケーション能力の課題である読解力や文章力、レポートの書き方など大学生に必要な日本語の知識を正しく学び、社会人基礎力としての正しい敬語やビジネス文書の作成等ができるよう、その基礎力を養う。外国語では、グローバルな視点で北海道の地域性を加味し、医療関連事業の海外進出をする際、強みとなるよう「中国語」、「韓国語」を学ぶ科目を配置し、近隣アジアの言語を学ぶ機会とする。また、英語科目は「英語Ⅰ基礎」を必修科目とし、続く「実践基礎」、「実践応用」と積み上げ方式で、より高度な英語力を身につけさせる機会を提供する。これら6科目12単位のうち4単位以上の履修を卒業要件とする。

（2）専門基礎科目（卒業要件：40単位以上）

専門基礎科目は、『社会福祉の基礎』、『経営の基礎』の科目領域にわけ、前者は社会福祉施設・医療機関等における制度的な側面を主に自由度をもって修得させる。後者は、社会福祉施設や関連する地域社会の運営管理のマネジメントに関する経営理論を修得するために必要な介護・福祉の基礎知識を修得させ、本学科の基幹科目を形成する。

ア. 『社会福祉の基礎』

『社会福祉の基礎』では1年次に配置する「医療福祉とマネジメント」及び「医学概論」で、学部・学科に入学した学生に対して今後の大学教育の全体像を示す科目とし必修科目とする。さらに、総合福祉学部での学びとして、修得しておきたい福祉や医療に関連する制度的な基本的知識を修得できるよう科目を配置した。上記の必修科目の他、以下の科目を配置する。

社会福祉の意義を示す科目である「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」は、総合福祉学部の学びの根源であるため、通年で学び、大学4年間通して医療福祉にかかわり社会に貢献する者としての動機づけとも意図している。ほかには「社会保障Ⅰ・Ⅱ」、「社会の理解Ⅰ・Ⅱ」、「障害の理解Ⅰ・Ⅱ」など特徴的な異なる分野の科目を配することで、履修する学生の興味や将来への視野を広く持てるよう配慮する。

また、人を対象としたサービス産業としての介護福祉にかかわる人材に必須と考えられる対象者への理解と具体的な支援の技術を修得できる科目を配置している。ここでは福祉系の科目と医療系の科目を複数配置しているが、いずれの領域にも共通して必要な科目として配置している。「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」は、介護領域での必須の科目でもあるが、認知症という疾患が多様で複合的な症状を呈するものであり、また、認知症のその人だけでなく、家族や地域の問題としての対応が求められるものでもあるため、時間をかけて理解する必要がある、「認知症研究所」を附属施設に持つ本学に特徴的な科目として、超高齢社会を支える人材の持つべき知識として学部内において共有できるようにする。また、「コミュニケーション技術」は、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的理解やチームマネジメントの基礎的な知識として、必須科目で単なる知識を超え、実践的な能力が問われる場面で活用できるよう配置する。

介護福祉士の資格取得を目指す場合は、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点や地域という観点か

ら生活と社会の関係性を体型的に学修する「社会の理解Ⅰ・Ⅱ」、障害のある人や認知症のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を修得する「障害の理解Ⅰ・Ⅱ」、「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」、「コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ」を学修することが必要である。

イ.『経営の基礎』

「医療のしくみ」「地域医療連携とチーム医療」では、多職種連携への理解の前提となる知識を学ばせる科目として、さらに「経営戦略」で基礎的な経営知識を修得させたのち、実践的な必修科目「地域活性化と地域医療」、「福祉サービスの組織と経営」、「介護施設経営」を履修させ適応力の修得を育成させる。必修科目とし3科目6単位を設定する。

さらに、「統計解析」、「会計学Ⅰ」、「簿記」の社会科学分野の科目も合わせて配置している。

(3) 専門教育科目（卒業要件：60単位以上）

専門教育科目は、介護福祉マネジメント分野で求められる知識と技術を修得し、さらに医療にかかわる幅広い役割で活躍できるよう配置した。その際、主体性をもって他者と協働し、問題解決に向かうことができるよう、ケーススタディ教育を多く取り入れ、多様な状況への適応力を体得させるための科目を配置した。科目構成は『マネジメント理論』、『医療管理と実務』、『地域マネジメント』、『介護福祉』、『総合科目』の5つの領域に分かれ、分野に特異な履修モデルを提供している。

また、介護福祉士の資格取得を目指すには、介護福祉科目として29科目70単位を履修することができる。

ア.『マネジメント理論』

修得科目として、「医療経営戦略」、「企業法務」、「経営管理論」、「人的資源管理論」、「組織心理学」、「医療流通システム論」、「医療マーケティング」、「会計学Ⅱ」、「原価計算」、「監査論」、「医療経済学」を配置し、経営に必須の技術である経理および、それらからなる財務の知識理解し、また、組織の運営管理のマネジメントに必要な理論や原則を学び、経営実務に役立てるための科目を配置している。

イ.『医療管理と実務』

病院や医療関連施設の組織の運営管理に関連する科目であり、「医療管理総論」、「医療管理各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「医療関連法規」、「医療安全・臨床倫理」を配置し、主としてケーススタディ（CS）を中心として構成するこれらの科目学び、ディスカッションやプレゼンテーション、シミュレーションや施設見学を通じて、病院や医療関連施設のしくみと医療経営の実際を知り、基本的な知識や思考、姿勢を身につける。

ウ.『地域マネジメント』

保健・医療・福祉分野から地域を対象とし、課題解決のための科目として、「持続可能社会と地域医療福祉経営」、「事業構想論」、「サービス産業論」、「ソーシャル・ビジネス」を配置し、地域社会と、事業の創造について学び、公共性の高い事業である医療福祉による地域の活性化や社会貢献への期待に応えられるよう、知識基盤を築くことができる科目を配置した。

エ.『介護福祉』

介護福祉士の資格取得を目指す学生のために配置した科目領域である。資格取得要件として介護福祉科目

26科目72単位を履修することが必要となる。人間の成長と発達過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を修得する。

「発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ」では、介護を必要とする人の生活支援を行うため介護実践の根拠となる人間の心理を理解し、人体の構造や機能を理解する「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ」では、介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。

「介護の基本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する。

「介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、尊厳の保持や自立支援、生活の豊さの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する。

「生活支援技術ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB」では、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。

「介護総合演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」では、地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力や本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

「介護実習Ⅰ型基礎・Ⅰ型応用・Ⅱ型基礎・Ⅱ型応用」では、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な意識・技術を修得する「医療的ケアⅠ・Ⅱ」を履修させる。

また、複雑化する医療ニーズに対して、医療職との連携をもとに生活に必要な行為として介護職ができる行為を実践的に学修する「医療的ケアⅢ」や認知症の人が住み慣れた地域の中での支援を受けながら自分らしく暮し続けられるようなケアサービスを学修する「認知症ケア論」等、ケアに必要な幅広い知識・技術を修得することを目指す。

オ. 総合科目（卒業要件：6単位以上）

総合科目は他の2区分の学びを、演習を通じて社会で実践できるよう、形式知を応用し活用するための科目である。「基礎演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修とし、「卒業研究」（4単位）を選択科目とする。

演習科目は、少人数制とし、ゼミナリストンが個々の目指す進路に向けてテーマを定め、調査・研究により、その専門性を探究できるよう支援する。卒業研究を選択する学生には、演習の成果の論文作成指導を行い、進学を希望する学生には、卒後の高度専門教育につなぐ指導方法をとる。

以上による各科目とディプロマ・ポリシーとの具体的な対応関係を全シラバスに示し、学科のカリキュラム・マップで修得できる科目の配置を示した【資料18】。

また、カリキュラム・ツリーには、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの関連性、さらに科目履修の順序と配当年次を示し、学修した知識と技術を体系的に修得できるように、年次を追って発展させるように教育課程を編成した【資料19】。

ソーシャルワーク学科

必ず履修しなければならない必修科目と各区分の中から指定された単位数以上を自由に選択できる選択科目を履修します。

(1) 基礎教育科目（必修科目12単位、選択科目45単位から12単位以上選択）

基礎教育科目は、一般的な教養科目を基盤とし、カリキュラム・ポリシー（CP1）のもと、人権や多様な個性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、土台となる基礎知識と豊かな人間性を養うことを重視した科目を配置した。保健・医療・福祉に関連する分野に貢献する者として備えておくべき知識や考え方、これら分野において対象となる人間そのものや、人間としての生き方などを学ぶことを目的としている。科目をテーマごとに「人間と文化」、「人間と社会」、「健康科学」及び「語学」に分類し、24単位以上を卒業要件と定め、幅広く偏りのない知識基盤を築くことを意図した。また選択の自由度を高めるため、科目数を広く設定するよう配置しました。

ア. 人間と文化（10単位以上）

配当年次を1・2年次とし、文化や社会生活に関連する科目を配置し、サービスや対人支援に携わることを想定し、人間理解の重要性を踏まえた科目を中心に配置した。科目選択の自由度を上げるため、広範な教養科目を設置し11科目19単位の中から10単位以上を履修させる。社会福祉士養成の指定科目である「心理学と心理的支援」を必修とし、さらに北海道という地域を理解することを重要視し「北海道史」についても必修とします。

イ. 人間と社会（8単位以上）

配当年次を1・2年次とし、社会科学分野の基本的な知識、教養を身につけるための科目を配置している。「法学入門」を必修とし、「政治学入門」、「経営学入門」、「マーケティング入門」、「会計学入門」など入門科目が中心となる。12科目20単位のうちから8単位以上の修得を必要とするが、社会福祉士養成の指定科目である「社会学と社会システム」については必修とします。

ウ. 健康科学（2単位以上）

配当年次を1・2年次とし、健康科学に関する科目、「生活科学」、「環境科学」、「健康とスポーツⅠ・Ⅱ」を設置し4科目6単位の中から2単位以上を履修します。

エ. 語学（4単位以上）

日本語を含めた4か国語を学べる科目配置である。「日本語表現」は、近年のコミュニケーション能力の課題である読解力や文章力、レポートの書き方など大学生に必要な母国語の知識を正しく学び、社会人基礎力としての正しい敬語やビジネス文書の作成等ができるよう、その基礎力を養う。外国語では、国際社会での活躍や、本学とも関係の深い中国、韓国など近隣アジアの言語を学ぶ機会とし、交流の際の強みとなるよう「英語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶ科目を配置した。また、「英語」は「基礎」、「実践基礎」、「実践応用」と積み上げ、より高度な英語力を身につける機会を提供しています。これら6科目12単位のうち4単位以上の履修を卒業要件とします。

(2) 専門基礎教育科目（必修科目31単位、選択科目29単位から21単位以上選択）

専門基礎教育科目は、保健・医療・福祉に携わる一員として基礎的な専門知識獲得と多職種連携と地域における実践を重視するため、保健・医療・福祉の専門性を持つために必要な基礎知識や技術、多職種との連携、地域での実践及び経営を学ぶための科目を配置した。本科目の修得は、専門教育科目の理解につなげることを目的としている。その中で「社会福祉の基礎」、「経営の基礎」に分類し、主に1年次から3年次を中心に履修できるように科目を配置した。

ア.『社会福祉の基礎』（46単位以上）

ソーシャルワーク学科での学びとして、修得しておきたい保健・医療・福祉に関連する基本的な知識を修得できるよう配置した科目区分である。「医療福祉とマネジメント」（2単位）と「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」（4単位）、「ソーシャルワークの原理」（2単位）、「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」（2単位）は、ソーシャルワーク学科の学びの根源であるため、1年次の必修科目とし、大学4年間を通して保健・医療・福祉に関わり、社会に貢献する者としての動機づけも意図している。2年次では「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」、「社会保障Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とし、地域における実践の理解や、社会保障制度の理解を目指す。また、ICF（国際生活機能分類）の視点を学ぶ科目として、「ICFの理解」を必修とし、「医学概論」、「リハビリテーション論」、「障害者福祉」、「ケアマネジメント論」の科目を配置し、理解を深める。福祉の支援を必要とする各対象分野の「貧困に対する支援」、「障害者福祉」、「高齢者福祉」、「児童・家庭福祉」などの科目を配置し、保健・医療・福祉に関わる人材に必須と考えられる対象の理解と、具体的な制度や支援の技術を修得できる科目を配置している。また、「医療ソーシャルワーク論」や「保健医療と福祉」を通じて、医療機関におけるソーシャルワークの理解や医療倫理、ソーシャルワーカーの役割、多職種連携などを学ぶ。さらには、諸外国の医療・福祉を理解する科目として「国際医療福祉論」の科目を配置することで、履修する学生の興味や将来への視野を広く持てるよう配慮した。そのほか、「カウンセリング」、「ケアマネジメント」等の対人援助職において重要な科目も、学生の将来によっては単なる知識のみではない実践的な能力が問われる場面も多く想定されるため、学生自身がその必要性を考えて選択履修できるように配置している。14科目27単位が必修であり、13科目25単位を選択科目として配置し、46単位以上を修得する。

イ.『経営の基礎』（6単位以上）

福祉や医療分野における基礎的な経営科目として4科目8単位を配置する。「福祉サービスの組織と経営」及び「介護施設経営」は必修とし、経営の基礎を理解することや、地域における連携などを学ぶことを目的とし、ソーシャルワークにおいても必要となるマネジメントについても学修する。2科目4単位が必修であり、2科目4単位を選択科目として配置し、6単位以上を修得する。

(3) 専門教育科目（必修科目18単位、選択科目67単位から30単位以上選択）

専門教育科目は、福祉や医療分野で求められるソーシャルワークを実践できる能力（知識と技術）を確実に修得すること、さらに社会人として実践現場で仕事をする際に、専門職として質の高い支援を実践するための知識と技術を修得するための科目を配置する。また、各人の将来目標に応じた資格取得を実現するための科目を配置する。専門教育科目は「ソーシャルワークの理論と方法」、「管理運営の実践」、「ソーシャルワーク演習」、「ソーシャルワーク実習」、「総合科目」に分類し、以下のように科目を配置する。

ア.『ソーシャルワークの理論と方法』

ソーシャルワークを実践できる能力の知識・技術についての講義科目を中心に配置する。「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」などのソーシャルワークに関する講義科目のほか、精神保健福祉士養成の指定講義科目を配置する。ソーシャルワークの知識・技術の修得を涵養し、演習科目、実習科目へとつなげていく。また、「認知症ケア論」では、認知症という疾患が多様で複合的な症状を呈するものであり、また、認知症のその人だけでなく、家族や地域の問題としての対応が求められるものでもあるため、時間をかけて理解する必要があるため、大学の附属施設に「認知症研究所」を持つ利点を活かした特徴的な科目として配置する。

イ.『管理運営の実践』

マネジメント理論の修得科目として、「経営管理論」、「人的資源管理論」を配置し、病院や医療関連施設のマネジメントに関連する科目として、「医療管理総論」、「医療安全・臨床倫理」を配置した。保健・医療・福祉分野から地域を対象とした課題解決のための科目として、「持続可能社会と地域医療福祉経営」、「地域連携実践」、「ソーシャルビジネス」を配置し、地域社会と事業の創造について学び、公共性の高い事業である保健・医療・福祉による地域の活性化や社会貢献への期待に応えられるよう、知識基盤を築くことができる科目を配置した。ただし、これらの科目はソーシャルワークをより発展させていく科目であり、選択は学生の主体性に任せる。

ウ.『ソーシャルワーク演習』

知識と技術を具体化していくために、ケーススタディ（CS）など様々な学びの手法を提供する演習科目として、「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ」の演習科目を配置する。「ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神）～Ⅶ（精神）」については、精神保健福祉士を目指す者を対象とした科目となる。ICF(国際生活機能分類)の視点やソーシャルワークの知識・技術を、アクティブ・ラーニングを用いた演習科目での学びを通じて、より実践力高め、実習科目と関連づけていくことを目指す。

エ.『ソーシャルワーク実習』

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」の実習科目を配置する。専門基礎科目や専門科目の「ソーシャルワークの理論と方法」、「管理運営の実践」、「ソーシャルワーク演習」の科目で学んできた知識・技術について、実際の保健・医療・福祉分野の現場で一定時間数の実習を行うことで、知識・技術の理解と獲得を目指し、また自分自身の現状及び課題に気づき、さらなる学びに向かう姿勢を涵養していく。配属実習前の実習指導、実習時における巡回訪問指導並びに帰校日指導、配属実習後の事後指導など、科目との連動を意識していく。

オ. 総合科目

科目での学びについて演習を通じて総合的に理解することを目的とし、「基礎演習」、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の3科目（6単位）を必修として配置する。「卒業研究」（4単位）は選択科目として配置する。演習科目では、知識の定着を図るため、きめ細かい学修を可能とする個別・少人数指導を重視した教育を行うため、少人数制のゼミナール形式とし、学生個々の目指す進路に向けてテーマを定め、調査・研究することにより、その専門性を探究できるよう支援する。「基礎演習」は1年次の開講し、体験学習も含め、4年

間の学びに向け、調査・研究の手法の基礎やゼミナールの展開の理解を中心として進めていく。「専門演習Ⅰ」は3年次に、「専門演習Ⅱ」は4年次に開講し、ゼミナールを通じて、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を行い、実践力を涵養する。さらに、自らの研究や他の学生の研究について、ディスカッションを重ねながら展開し、学生個々の目指す進路に向けてテーマを定め、調査・研究することにより、その専門性を探究できるよう支援していく。卒業研究とも関連させながら、4年間の学びの集大成とする。「卒業研究」を選択する学生には、それらの成果を論文にまとめるまでの指導を行い、大学卒業以降の高度専門教育への進学など将来の選択肢の拡大を支援するものとする。

〈カリキュラム・マップ ソーシャルワーク学科〉

区分		学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）：DP					
		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
履修年次	学期	人間を尊重する態度と深い倫理観と人間を総合的に存在として理解することができる能力	保険・医療・福祉・介護・療育・教育等に関わる専門的知識や技術についての能力	利用者支援の生活支援として、ソーシャルワークの展開過程を実施できる能力	利用者やその家族の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（個別支援）する能力	地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（地域支援）する能力	個別支援から地域支援へ、地域支援から個別支援への連続した支援についての能力
1 年次 履修	前期	基礎教育科目 人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 倫理学（選2） 心理学と心理的支援（必2） 経営学入門（選1） 統計学（選2） 会計学入門（選2） 健康とスポーツⅠ（必2） 健康とスポーツⅡ（必2） 日本語表現（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学と心理的支援（必2） 健康とスポーツⅠ（必2）	人間関係とコミュニケーションⅠ（選2） 心理学と心理的支援（必2）	健康とスポーツⅠ（必2） 健康とスポーツⅡ（必2）	健康とスポーツⅠ（必2）	経営学入門（選1）
	後期	専門基礎科目 医療福祉とマネジメント（必2） 社会福祉の原理と政策Ⅰ（必2） 障害者福祉（選2）	医療福祉とマネジメント（必2） 社会福祉の原理と政策Ⅰ（必2） 障害者福祉（選2）	医療福祉とマネジメント（必2） 障害者福祉（選2）	医療福祉とマネジメント（必2） 障害者福祉（選2）	医療福祉とマネジメント（必2） 障害者福祉（選2）	
		高専教科科目 ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ（必2） 基礎演習（必 通年2）	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ（必2） 基礎演習（必 通年2）	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ（必2） 基礎演習（必 通年2）	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ（必2） 基礎演習（必 通年2）	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ（必2） 基礎演習（必 通年2）	
			人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 北海道史（必1） 発達心理学（選2） ボランティア活動（選1） 法学入門（必1） 経済学入門（選1） マーケティング入門（選2） 情報科学（選2） 簿記入門（選2） 生活科学（選1） 環境科学（選1） 英語Ⅰ（基礎）（必2） 韓国語（選2）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 発達心理学（選2） ボランティア活動（選1）	人間関係とコミュニケーションⅡ（選2） 発達心理学（選2）	発達心理学（選2）	
2 年次 履修	前期	基礎教育科目 社会福祉の原理と政策Ⅱ（必2） 高齢者福祉（選2） ソーシャルワークの原理（必2） 医学概論（必2）	社会福祉の原理と政策Ⅱ（必2） 高齢者福祉（選2） ソーシャルワークの原理（必2） 医学概論（必2）	ソーシャルワークの原理（必2）	高齢者福祉（選2） ソーシャルワークの原理（必2）	高齢者福祉（選2） ソーシャルワークの原理（必2）	ソーシャルワークの原理（必2）
	後期	専門基礎科目 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（必2） 基礎演習（必 通年2）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（必2） 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ（選2） 基礎演習（必 通年2）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（必2） 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ（選2） 基礎演習（必 通年2）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（必2） 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ（選2） 基礎演習（必 通年2）	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ（選2） 基礎演習（必 通年2）	
		人間の尊厳と自立（選2） 教育学（選2） 政治学入門（選1） 社会学と社会学システム（必2） 健康とスポーツⅡ（選2） 英語Ⅱ（実践基礎）（選2） 中国語（選2）	人間の尊厳と自立（選2） 教育学（選2） 社会学と社会学システム（必2） 健康とスポーツⅡ（選2）	人間の尊厳と自立（選2） 社会学と社会学システム（必2）	人間の尊厳と自立（選2） 教育学（選2） 健康とスポーツⅡ（選2）	社会学と社会学システム（必2） 健康とスポーツⅡ（選2）	社会学と社会学システム（必2）
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（必2） 社会保険Ⅰ（必2） 社会福祉調査の基礎（選2） リハビリテーション論（選2） ICFの理解（必1）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（必2） 社会保険Ⅰ（必2） 社会福祉調査の基礎（選2） リハビリテーション論（選2） ICFの理解（必1）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（必2） リハビリテーション論（必2） ICFの理解（必1）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（必2） 社会保険Ⅰ（必2） リハビリテーション論（必2） ICFの理解（必1）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（必2） リハビリテーション論（必2） ICFの理解（必1）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ（必2） リハビリテーション論（必2）
3 年次 履修	前期	精神保健福祉の原理Ⅰ（選2） ソーシャルワーク演習Ⅰ（必1）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（必2） 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（選2） 精神保健福祉の原理Ⅰ（選2）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（必2） 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（選2） 精神保健福祉の原理Ⅰ（選2） ソーシャルワーク演習Ⅰ（必1）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（必2） 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（選2） 精神保健福祉の原理Ⅰ（選2） ソーシャルワーク演習Ⅰ（必1）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（必2） 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（選2） 精神保健福祉の原理Ⅰ（選2）	
	後期	高専教科科目 文化人類学（選2） 文学（選1） 英語Ⅲ（実践応用）（選2）					
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（必2） 社会保険Ⅱ（必2） 児童・家庭福祉（選2） 保健医療と福祉（必2） 公衆衛生学（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（必2） 社会保険Ⅱ（必2） 児童・家庭福祉（選2） 保健医療と福祉（必2） 公衆衛生学（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（必2） 児童・家庭福祉（選2） 保健医療と福祉（必2） カウンセリング（選2） カウンセリング（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（必2） 児童・家庭福祉（選2） 保健医療と福祉（必2） 公衆衛生学（選2） カウンセリング（選2）	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（必2） 児童・家庭福祉（選2） 保健医療と福祉（必2） 公衆衛生学（選2）	
		精神保健福祉の原理Ⅱ（選2） 医療管理総論（選2） ソーシャルワーク演習Ⅱ（必2） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（選1）	精神保健福祉の原理Ⅱ（選2） 医療管理総論（選2） ソーシャルワーク演習Ⅱ（必2） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（選1）	精神保健福祉の原理Ⅱ（選2） 医療管理総論（選2） ソーシャルワーク演習Ⅱ（必2） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（選1）	精神保健福祉の原理Ⅱ（選2） 医療管理総論（選2） ソーシャルワーク演習Ⅱ（必2） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（選1）	精神保健福祉の原理Ⅱ（選2） 医療管理総論（選2） ソーシャルワーク演習Ⅱ（必2） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（選1）	精神保健福祉の原理Ⅱ（選2） 医療管理総論（選2） ソーシャルワーク演習Ⅱ（必2） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（選1）

